

実務者のための実践報告会

若手担当者が意見交換

大谷専修学院など事例通じ

京都設監協会



挨拶する湯川会長

（一社）京都建築設計監理協会次世代委員会は、このほど、中京区のウイングス京都で「実務者のための実践報告会」を開催した。会員や賛助会員ら約40人が参加。若手担当者が設計事務所の手掛けた作品事例を紹介し、出席者で意見交換を行った。

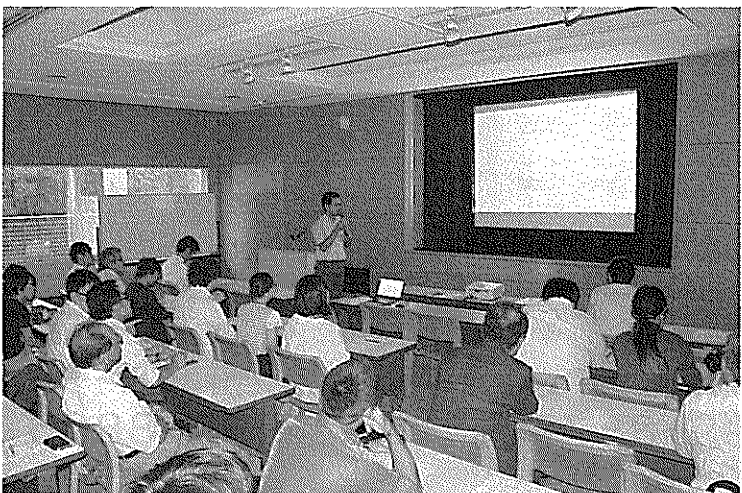
実践報告会は、協会に属する設計事務所の若手所員たちが日常業務について情報交換し、設計監理の課題に関して率直に話し合える場になるよう、次世代委員会が企画した。

開催にあたって協会の湯川君雄会長が「若い技術者にとっては、他の設計事務所が何にこだわり設計を進めていくのか、非常に気になる」ところ。報告会を

通じて自分なりに勉強し、日頃の仕事に生かしてほしい。今年度にもう一回開催できれば」と挨拶。次世代委員会の小濱隆宏委員長（ノム建築設計室）は「報告会は、若い世代の実務者が勉強できる場。今後もこういった機会を増やしていきたい」と語った。

会合では、京都建築事務所所の山根宗泰氏が「真宗大谷派大谷専修学院新築工事」（RC造2階

建、延1464㎡）、小濱氏が「ザ・ガーデンオリエンタル大阪・西庭プロジェクト」（S造2階建、延613㎡）と「東山八坂プロジェクト」（W造地上2階地下1階建、延691㎡）の作品事例を紹介。設計コンセプトや施設配置、工程計画などのほか、特に気を付けたことなどを説明し、質疑応答などを行った。



中京区内で開かれた実践報告会